

ジョセフ・E. スティグリッツ、ジャンポール・フィトゥシ、アマティア・セン 著「暮らしの質を測る－経済成長率を超える幸福度指標の提案－」（ジョセフ・E. スティグリッツ、ジャンポール・フィトゥシ、アマティア・セン 委員会報告書）金融財政事情研究会 2012年4月20日刊を読む

教育

1. 経済的生産を下支えする技能と能力を提供するうえで、教育が重要であることを、経済研究は長年強調してきた。しかし、それが人びとの稼ぎや生産性に及ぼす影響とは別に、教育は暮らしの質にとって重要である。
2. それが高い所得をもたらすという要因を除いて計算しても、教育は人びとの人生に対する満足度と深く関係している。さらに、よい教育を受けた人ほど、一般的には、健康状態がよく、失業することが少なく、社会的なつながりが多く、市民社会および政治生活にもより深くかかわっていることが多い。
3. 利用可能なデータだけでは、教育と暮らしの質の他の次元との因果関係（たとえば不健康な子供ほど学校を欠席しがちだといったこと）を方向づけるような結論は出せない。だが教育は、教育に投資した人と、その人が住んでいる地域社会の両方に、（金銭的と非金銭的なものを含めて）大きな利益をもたらす。このことについては全員の合意がある。
4. 教育がもたらすこうした広範な利益を計測することは、研究の重要な優先課題である。この研究を進めるには、多くの領域における人びとの特徴をより正確に計測し、その同じ個人を時間をかけて追跡調査していく作業が必要になる。
5. 教育に関するいま利用可能な指標は多くの分野を対象にしている。投入の数字（大学率、教育支出額、学校の資源）に関するものもあるが、処理量と産出量の数字（卒業率、修学年数、読解力と計算力に関する成績の標準化した評価）もある。どちらの指標が妥当かは、その国の発展段階と評価作業の目標によって決まる。
6. 利用できる指標でみると、国ごとに大きな差があり、教育に関する多様な指標が、時には対照的な姿を映し出していることもある。
7. 一例をあげよう。いくつかの国々では、大学卒業生は卓越した成績をあげているが、多くの若者の間で学業不振が広がっている。そうした学業不振の若者は、社会・経済的な階層で最下層の家庭出身であることが多い。
8. こうした格差は（平均修学年数などの）要約した教育指標では互いに打ち消し合うので表面に出てこないが、暮らしの質を評価する際には大きな意味をもってくる。一国内でも、学業成績の格差は、成績評価の最下位にいる若者たちにとって特に重要である。学業最下位の若者たちは、大

人になってから貧困になるか、あるいは、給料が高くやりがいのある仕事から排除される危険があるからである。

9. 教育は人びとの暮らしの諸次元を示す重要な予測指標なので、あらゆる社会調査には、回答者とその両親の学業成績に関する情報を、制度として組み入れるべきである。同時に、暮らしの質をかたちづくる他の事項に関する情報も調査対象に入れるべきである。
10. 教育が暮らしの質に及ぼす影響を評価するのに最も妥当な指標のなかには、人びとの得意とする能力の評価がある。こうした能力を標準化して評価する方法がいくつか近年開発された。この方法にはまだおおいに不十分な部分がある。
11. 第一に、そして明白なことだが、すべての国がこうした調査を実施しているわけではない。
12. 第二に、こうした計測方法の多くは、広い意味で人びとの能力を計測するという視点から開発したものではない。そうではなく、教育政策を評価するという視点で開発している。教育政策の評価には、計測可能なもっと狭い諸能力に焦点を当てることが求められる。
13. 第三に、既存の評価方法は、狭い範囲しか対象にしていない。学校教育は、知識と技能開発と暮らしの質の改善につながる、多くの投入物のなかの一つでしかない。後年になって人びとが学習して暮らしの質を高めるうえで、幼児期の経験が大きくものをいうことがますます証明されてきているのに、幼児期に子供が味わう経験と身につける「ソフトな」能力に関する情報は少ないままである。
14. 高等教育を通じた学生の能力と、大人の社会人教育と訓練に関する評価結果を比較しようとすると、計測の方法は未発達にとどまっている。社会人の能力を評価する新しい方法が開発されていくにつれて、この状況は変わっていくであろう。
15. 暮らしの質の諸特徴については、教育それ自身についての詳細な情報がないということが主要な問題なのではない。個人の水準における暮らしの質にとって重要である教育と、他の諸結果を同時に両方とも、計測する調査がないということが最重要問題なのである。

P76 ~ 78

[コメント]

幼児教育、初等教育、前期中等教育、後期中等教育、高等教育、社会に出てからの教育、職業訓練、専門職教育 etc と教育の様々な段階には各々の明確な役割がある。教育を下支えするのが社会教育で、教育の中心に位置するのが家庭教育であると考えます。

— 2012年4月28日 林 明夫記 —